

「ALLwatch」は弊社が提供するモニターサービスの総称です。

警報動作の設定と動作シーケンス

I. 弊社の監視装置に設定可能な警報

- (1) SW150LF/LF8、SW150PF/PFK の漏電及び温度警報：H、HH、HHH の3点設定
- (2) TW900F のアナログ入力警報：LLL、LL、L、H、HH、HHH、の6点設定
- (3) TW900F のパルス入力に対する警報：H、HH、HHH の3点設定

※注記：SW150LF/LF8、SW500F にパルスカウント機能はありません。また SW150PF/PFK のデマンドパルスの設定に対する通報動作は、後述の内容とは異なります。

II. 動作

警報発生時の通報の送り方は設定および信号の変化により変わりますので注意が必要です。

○信号動作の定義：

動作状態1：ゆっくりとした変化、ゆっくりとした変化で警報点を超え、ゆっくりとH復帰点以下に戻った場合→信号の変化が遅延時間(警報判定時間)より十分に長い場合

動作状態2：急な変化、計測値が急にHHH警報点超に変化し、戻る時も急にH警報点以下になった場合→信号の変化が遅延時間(警報判定時間)より短い場合

(1) 警報設定が全ての警報点と復帰点に設定されている場合(基本動作)

動作状態1：設定されたすべての警報点・復帰点で記録が残り、メールで通報を送信します。

動作状態2：設定されたすべての警報点・復帰点の記録が残り、メール通報はHHH警報発生とH復帰を送信します(信号変化が急な場合はH通報、HH通報およびHHH復帰HH復帰のメールは送信しません)。

(2) 警報設定が全ての警報点とHHH、HH復帰点に設定されている場合(H復帰通報の設定がない場合)

動作状態1：警報点・復帰点は全て記録に残ります。H復帰メール以外のメールは送られます。

動作状態2：警報点・復帰点は全て記録に残ります。HHH警報発生メールは送信しますが、H復帰が設定されていないのでH復帰メールは送信しません(HHH復帰、HH復帰のメールも送信しません)。

(3) 警報設定がHH、HHHに設定と全ての復帰点に設定されている場合(H警報通報の設定がない場合)

動作状態1：警報点、復帰点は全て記録に残り、HH、HHH警報、HHH、HH復帰メールを送信します。→H警報メールを送信しない設定のためH復帰通報メールは送信しません。

動作状態2：警報点、復帰点は全て記録に残ります。HHH警報発生メールは送信しますが、H警報通報が設定されていないのでH復帰メールは送信しません(HHH復帰、HH復帰のメールも送信しません)。

(4) TW900F のパルス入力でL、LL、LLL警報が出ない。

パルス入力は積算信号と捉えますので下限警報では動作しません。

III. 誤警報と異常通報

次のような設定や操作をした場合に誤警報が出たり、異常通報が発生したり、警報の見落としが発生します。

- ①遅延時間の設定が60秒以下に設定されている→入力の急変があった時に警報が複数出たり欠落したりします。
- ②警報判定動作に入っている時(遅延時間中)に警報設定値の変更を行った場合→警報が出なくなります。
- ③警報値の間隔が狭く遅延時間が長い場合→警報値を超えても遅延時間内に数値が警報点以下になると警報が送られません。(機器の異常を見落とす恐れがあります。)
- ④電源ON直後にテストスイッチを何回も押した時→通報時間の逆転、メールの遅延等が起ります。
- ⑤短時間に何度もテストスイッチを押した場合→通信の動作は最低でも30秒はかかります。電波の状態があまり良くない場所では特に注意してください。

この案内に関するお問い合わせは、下記のフリーダイヤルにて承っております。



0120-053-606(土・日・祝日を除く9:30~17:30(12:15~13:00を除く))